

陸上競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本陸上競技連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、陸上競技場第4ゲート付近に設ける。
- (2) スタートコールは、「イングリッシュコール」とする。
- (3) 不正スタート（フライング）は、1回目で失格とする。
- (4) 視覚障害者の50mは、競技役員によるハンドマイクに収納した音源又は許可された者（コーラー）による音源を用いる。
- (5) 投てきの試技は、3連投とする。
- (6) 競技記録は、陸上競技場室内走路に設けた記録掲示板に掲示する。
- (7) 表彰は随時行う。各種目、各組の1位～3位までの選手には、金、銀、銅の入賞メダルを、リレーを除く4位以降の選手には敢闘賞（賞状）を授与する。

3 その他

- (1) 「競技組み合わせ」(プログラム)に記載している各競技の招集時間を厳守すること。
- (2) トラック種目（スラロームを除く）に出場する選手は、大会当日招集所で配付する腰ナンバーカードを右腰（車いす使用者は右側の見やすいところ）に付けること。
- (3) 競技場への入退場

競技関係者（選手・伴走者・競技役員・補助員等、直接競技運営に携わる者）以外の者は、トラック及びフィールド内に入場することはできない。

ただし、介助が必要である等として申し込み時に申請し、主催者の許可を受け、IDカードの配布を受けた者（介助者）は、この限りではない。この場合も、大会における介助者の役割をよく理解し、これを守らなければならない。

なお、上記競技関係者については、大会の公式な記録を取ることを目的に特別に事務局が許可した者を除き、カメラ類の持ち込みは厳禁とする。

水泳競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本水泳連盟競泳競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、プール西側（本部席の反対側）の選手控室に設ける。
- (2) 2種目に出場する選手で、1種目目の競技終了時間から2種目目招集完了時間までが10分以内の場合は、当該選手の代理の者がその旨を申し出、代行することができる。
- (3) 表彰は随時行う。各種目、各組の1位～3位までの選手には、金、銀、銅の入賞メダルを、リレーを除く4位以降の選手には敢闘賞（賞状）を授与する。

- (4) 2種目目の競技時間の重複により表彰に参加できない場合は、2種目目の競技終了後、表彰者待機所でメダルを受け取る。
- (5) 千葉県国際水泳場の水深は2mであるが、レースを実施するコースについてはスタートと折り返し地点に80cmの低床フローアを敷く。
- (6) 競技記録は、選手控室入口付近に設けた記録掲示板に掲示する。

3 その他

- (1) 視覚障害者選手のタッピングを許可された者は、タッピング棒を各自で用意すること。
- (2) 水着は、FINA承認水着でなくともよいが形状（身体を覆う範囲）等は競技規則を確認すること。
- (3) 当日の競技は、別表の種目順に行うので、参加申し込み時に参考にすること。ただし、編成上、やむを得ず種目順を変更することがある。
- (4) 介助犬については、1Fエントランスホールに待機所を設けるので、そこに繋ぐこと。

(別表) 種目順

1	25m自由形	6	50m背泳ぎ
2	25m背泳ぎ	7	50m平泳ぎ
3	25m平泳ぎ	8	50mバタフライ
4	25mバタフライ	9	200mリレー
5	50m自由形	10	200mメドレーリレー

卓球競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、体育館内本部席近くに設ける。
- (2) 競技用服装は、JTТА（日本卓球協会）承認のものでなくてもよい。
- (3) ボールは、直径40mmプラスチックボール（Nittaku）を使用する。
- (4) タイムアウト制は導入しない。
- (5) コートには、選手1人につきアドバイザー（監督、手話通訳など）を1人帯同することができる。アドバイザーとは別に介助が必要な場合は、参加申し込み時にその旨申し込むこと。
- (6) 表彰は、全競技終了後に行う。各ブロック（同一区分以外の者と併せて同一ブロックを構成している場合は同一区分の者ごと）の1位～3位までの選手には、金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降の選手には敢闘賞（賞状）を授与する。
- (7) 対戦表及び競技結果は、体育館入り口付近に掲示する。

3 その他

- (1) ラバーの張替えは、所定の場所で行うこと。

サウンドテーブルテニス競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集は、試合前に点呼するので、競技者はホール内で待機する。
- (2) 競技用服装は、JTТА(日本卓球協会)承認のものでなくてもよい。
- (3) ボールは、競技規則に定められた規格のものを使用する。
- (4) 1マッチは、3ゲームとする。マッチの勝敗は、2ゲーム先取した競技者を勝ちとする。
- (5) 場内が騒々しい場合は、主審の判断で一時競技を中断して静かにさせた後、競技を再開する。
- (6) コートには、選手1人につきアドバイザー(監督、手話通訳など)を1人帯同することができる。
- (7) 表彰は、全競技終了後に行う。各ブロック(同一区分以外の者と併せて同一ブロックを構成している場合は同一区分の者ごと)の1位~3位までの選手には、金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降の選手には敢闘賞(賞状)を授与する。
- (8) 対戦表及び競技結果は、体育室入り口付近に掲示する。

アーチェリー競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、フィールド内本部テント付近に設ける。
- (2) 表彰は、全競技終了後に行う。各種目・各組の1位~3位までの選手には金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降及び30mに満たなかった選手には敢闘賞(賞状)を授与する。
- (3) 競技記録は、大会本部付近に設けた記録掲示板に掲示する。

ボウリング競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)全日本ボウリング協会制定ボウリング競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、ボウラーズベンチとする。
- (2) 競技方法は、デュアルレーン(アメリカン)方式とする。

- (3) 競技は、すべてスクラッチ（ハンディキャップなし）2ゲームマッチとし、合計得点により順位を決定する。
- (4) 自動式ファウル判定機は使用しないで競技を行い、ファウルラインを超えても意図的なものではない限りファウルとしない。
- (5) オートマチックスコアラーの操作、個人記録カードの記入は、すべて競技役員又は競技補助員が行う。
- (6) シューズ及びボールは、各自で用意することが望ましいが、競技会場のものを使用してもよい（ハウスシューズは有料）。
- (7) 表彰は、全競技終了後に行う。各組の1位～3位までの選手には、金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降の選手には敢闘賞（賞状）を授与する。
- (8) 競技記録は、ボウラズベンチ後方に設けた記録掲示板に掲示する。
- (9) ボウラズベンチへの立ち入りは、競技役員、競技補助員及び競技者のみとする。

3 その他

- (1) 競技者は、競技中ボウラズベンチをむやみに離れてはならない。やむを得ず放れる場合は、必ず競技役員に申し出て了承を得ること。
- (2) 競技中の飲食・喫煙は禁止する。ただし、アルコールを含まない飲料をボウラズベンチ外で飲むことは許可される。

フットベースボール競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ソフトボール・ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) チームの構成は、監督1名・コーチ2名・選手15名以内とする。
- (2) 各チームの監督は、試合毎にプレイヤーエントリー票を試合開始30分前までに競技本部に提出する。
- (3) 試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。
時間に余裕があればフレンドリーマッチを行うことができる。
- (4) 同点の場合は、最終出場選手9名（DPを採用しているチームはDEFO（守備者）を除く）の抽選によって勝敗を決定する。
- (5) 表彰は、全競技終了後に行う。1位～3位までのチームには賞状、各プレイヤーには金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降のチーム各プレイヤーには敢闘賞（賞状）を授与する。
- (6) ベンチは、原則として組み合わせ表の若い番号（トーナメント表の向かって左側に記載されているチーム）が一塁側とする。
- (7) 関東ブロック地区予選会には原則として優勝チームが出場することとする。各チームから選抜する場合は、優勝チームの監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

バレーボール競技実施要領

1 競技規則

平成29年度全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本バレーボール協会競技規則（国際競技規則）及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

（1）チームの構成

①聴覚障害 監督1名・コーチ1名・マネージャー（手話通訳者等）1名及び選手12名以内とする。監督・コーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督・コーチを含めて12名以内とする。

男女別にチームを構成する。

②知的障害 監督1名・コーチ2名及び選手12名以内とする。

男女別にチームを構成する。

（2）各チームの監督は、試合毎にコンポジションメンバー表を試合開始30分前までに本部に提出する。

（3）試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。

時間に余裕があればフレンドリーマッチを行うことができる。

（4）1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。なお、得点が「24対24」の同点となった場合、それ以降は、2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。

第3セットは25点制で行い、コートの変更は何れかのチームが13点先取したときに行う。

試合はワンボールシステムで行う。

同率の場合の勝敗は、勝ったセット数で決まらない場合、チームの総得点と総失点の差で決定する。それでも決まらない場合は、コイントスで決める。

（5）表彰は、全競技終了後に行う。1位～3位までのチームには賞状、各選手には金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降のチーム各選手には敢闘賞（賞状）を授与する。

（6）背番号は1番から12番までが望ましい。やむを得ない場合は、1番から99番までとする。

なお、チーム名、キャプテンマーク、背番号等のサイズは、規定のものとする。

リベロプレーヤーを採用する場合は、他の競技者と区別できるユニフォームを着用する。

（7）監督会議の場において、申し合わせ事項を設けることができる。

（8）関東ブロック地区予選会には、原則として優勝チームが出場することとする。各チームから選抜する場合は、優勝チームの監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

バスケットボール競技実施要領

1 競技規則

平成29年度（公財）日本バスケットボール協会競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

(1) チームの構成は、コーチ1名・アシスタントコーチ1名・マネージャー1名及び選手12名以内を原則とする。ここでいうコーチとは、ゲーム中実際にチームを指揮するものを指す。

コーチ・アシスタントコーチ・マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねるコーチ・アシスタントコーチ・マネージャーを含めて12名を原則とする。

男女別にチームを構成する。

(2) 各チームのコーチは、試合毎にエントリー票を試合開始30分前までに各コートのテーブルオフィシャルに提出する。

(3) 試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。

時間に余裕があれば、フレンドリーマッチを行うことができる。

(4) 試合時間は、8分クォーター制とし、ピリオド間のインターバルを2分、ハーフタイムを10分とする。

得点と同じ場合は、延長戦を3分間行う。更に同点の場合、2分間のインターバルをおき延長戦を行い、これを繰り返す。

(5) 表彰は、全競技終了後に行う。1位～3位までのチームには賞状、各選手には金、銀、銅の入賞メダルを、4位以降のチーム各選手には敢闘賞（賞状）を授与する。

(6) 出場選手は、濃色と淡色（白色）の2種類のユニフォームを用意し、原則として組合せ番号の若いチームが淡色（白）のユニフォームを着用すること。

背番号は、審判とスコアラーにはっきりと分かるように付けること。

(7) コーチ会議の場において、申し合わせ事項を設けることができる。

(8) 関東ブロック地区予選会には、原則として各チームから選抜された県代表チームが出場することとする。選手は、県代表チームのコーチを中心に関係者で話し合いの上決定する。